

日本神経精神薬理学会 50周年「記念誌」のコーナー

この「コーナー」もあと2回となりました。

「記念誌」制作の準備は順調に進んでおります。

多くの方々に「記念誌」へのご関心を持っていただきたく、この「コーナー」ではその内容の一端をご紹介します。

今回はお寄せいただいた原稿の中から、学会の来し方行く末を展望するもののタイトルをご紹介します。また、学会発足以前の状況や学会の国際交流についてご紹介します。

2020年7月17日
50周年記念事業Working Group
「記念誌」編集担当

「記念誌」Preview～JSNPの50年と共に

学会と共に歩んでこられた会員の皆さまから寄せていただいたメッセージのうち、「回顧と展望」のサブタイトルのもとにまとめられる10篇のタイトルを紹介します。大切な思いが込められた原稿です。熟読玩味したいと思います。「記念誌」をお楽しみにお待ちしております。

群馬大学医学部行動分析学教室、田所作太郎先生の思い出

岩原信九郎先生、岩崎先生の思い出～東京教育大学から筑波大学へ

心と脳を行きつ戻りつ～融道男先生の思い出

神経行動薬理若手研究者の集いの歩みについて

私のCINP参加記

海外で開催した第46回年会の運営に携わって

精神薬理談話会の頃

研究者として成長させていただいた日本神経精神薬理学会

CINPシンポジウムの採択の要綱、開催の打診

わたくしの精神神経薬理学の軌跡

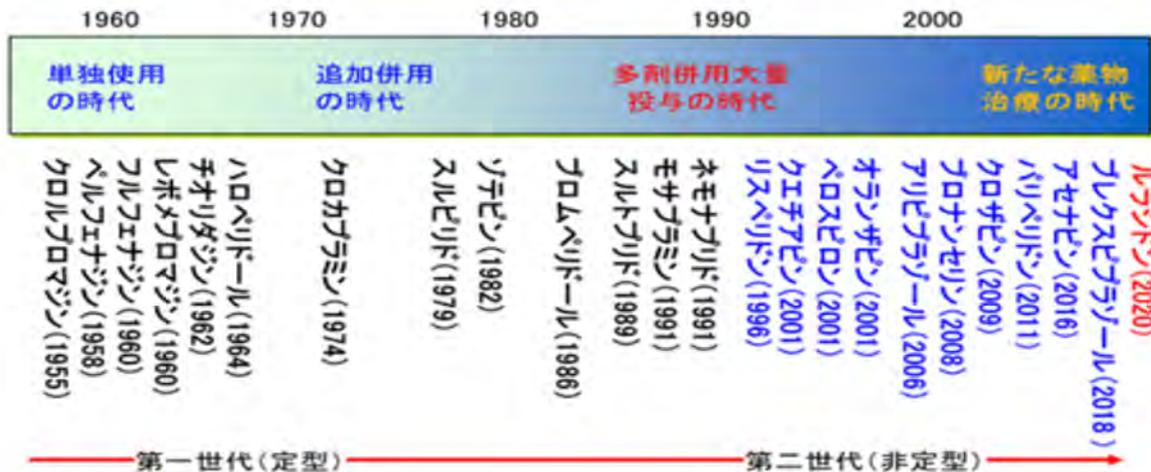
JNSP発足のバックグラウンド(1)

鍋島俊隆先生と山脇成人先生にご提供いただいた資料から、
JNSP発足以前の歴史を概観します。まずは主な抗精神病薬の歴史から。

1950年代：向精神薬が誕生した

- 1955 クロルプロマジン
- 1958 ヒドロキシジン
- 1959 イミプラミン

本邦における主要抗精神病薬の市販年次



名城大学 亀井浩行 作成：
日本における抗精神病薬処方の変遷と主要抗精神病薬の市販年次
(「分製薬物治療の新時代」(株)ライフ・サイエンス p10を一部改変)

JNSP発足のバックグラウンド(2)

次に神経精神薬理学の基礎となる基礎的な知見を見てみましょう。

50 - 70年代：精神精神薬理学の基礎となる多くの知見が発見された

- 1950年代 Carlsson: ドパミン測定方法開発、レセルピンによりドパミン量低下
神経伝達物質としてのドパミン
- 1957 Janssen: アンフェタミン運動亢進作用にハロペリドールが拮抗
- 1960 Axelrodら：神経伝達物質トランスポーター発見

生理活性分子の解析法はこんなふうに進展してきました。

- 1906 カラムクロマトグラフィー
- 1938 薄層クロマトグラフィー (TLC)
- 1944 ペーパークロマトグラフィー
- 1957 ガスクロマトグラフィー
- 1966 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)
- 1971 ポリアクリルアミドゲル電気泳動法
- 1972 エチジウムブロマイド染色法
- 1970代 逆相系HPLC

こうしてJNSPの前身、精神薬理談話会設立の機運が高まったのでした。

続きは「記念誌」の年表をご覧ください。

JSNPの国際交流

当学会の国際交流の歴史は長いです。談話会発足直後の1972年、日本で第20回国際心理学会が開かれ、来日した著名な精神薬理学者16名を招いて懇談会が開かれたことがニュースレターの記事にあります。1985年からはAmerican College of Neuropsychopharmacology との合同大会も開かれました。とりわけ重要なのがThe International College of Neuropsychopharmacology (CINP)との交流です。1958年から2年毎に開かれているCINP、1990年には第17回大会が京都で開かれました。これはそのときのサテライトシンポジウムの写真です。鍋島俊隆先生にご提供いただきました。



学問の世界を国際的に開くことはたいへん重要です。JSNPの雑誌がNPPRになったこともその一環だと思います。

さて前回のクイズ。第1回のCINPは1958年、ローマで開催されました。この当時、日本からローマに行くにはどのくらいの時間がかかったでしょうか？

ひとつの答えは約1週間です。当時は「南回り欧州航路」というものしかなく、まず東京から香港を経てバンコクで乗り換え、このとき2,3泊して次便待機、次にニューデリーまたはボンベイを経てテヘランかカラチでまた3,4日待機して乗り換え、バイルート、アテネを経てローマに至りました。これは当時日航の客室乗務員だった方がRelieve JournalというWEB記事に書いていることす。

ではクイズ。次回のPreviewでは学会の先駆者、小林司、岩原信九郎、柳田知司、田所作太郎の4先生のご業績を取り上げます。さてこの中で小林先生と田所先生には研究、教育、臨床以外に共通する趣味とか特技がありました。それは何でしょう？ 正解は次号で・・・